

# 風の輪

題字 岡村 重夫

## わたしたちも成人式を

### おめでとう 20歳×2

執筆・藤井成子  
(水仙風の会会長)

水仙風の会は1月27日、十三サンボードシティ(淀川区)で「ダブル成人式」を開催。国会議員、府議会議員、市会議員、西淀川区社協、大阪西ライオンズクラブ、春日丘高校音楽部の有志の皆さんにお祝いに駆けつけていただいたなか、11人の方々が、ダブル成人としてお祝いを受けた

### 20年前の式 参加に躊躇

風の会では、例年成人を迎えた人たちのお祝いを施設内

で行なってきましたが、昨年より周囲に理解を深めてもらうことに繋がればと、十三にあるサンボードシティに会場を移して実施するようになりました。今年は新



発表された施設利用者、その保護者の方々

成人の該当者はなかったのですが、既に二十歳を過ぎた人たちの中から「僕たちもこんな所ですて欲しかったです」という声もあり、ダブル成人(20歳×2)のお祝いが企画されました。一般に行なわれる成人式は楽しみ



春日丘高校の皆さんはミュージカル等を熱演、また最後はみんなで「風を見た人」を大合唱

の行事の一つですが、障害のある人の多くは(社会はまだ

### 嬉し恥ずかし その日の主役

そこで単にお祝いをするのではなく、「青年の主張」ではないけれど本人たちの気持ちを伝え、親も共に成長を喜びあえる場としての「成人の集い」を行なってきました。晴れ着を着たその日の主役

まだ受け入れ態勢は整っていませんから)式に参加することすらためられるのが現状です。親は、喜びより将来の不安の方が大きく、まして成人式に付き物の「晴れ着、お酒、タバコなどすべて我が子には無縁」と、思ってしまったが、約20年前の「風の子そだち園」設立当初の親ほどの気持ちが強かったのではないのでしょうか。

でも、本人の気持ちを探って行く日々の療育の中で、どの子も親が思う以上にいろいろな事を考え、自分の思いが親や関わってくれる人たちに伝わらない事に苦慮していることが判ってきたのです。

は、嬉しそうな、ちよつと恥ずかしそうな表情で自分の気持ち(自分で出来にくい子は職員の助けを借り)披露します。それを聞く親たちは、その子の成長を素直に喜び合えることができるようになりました。今年の企画は好評で、「ダブル成人のお祝い」も恒例になりそうです。